

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190200412		
法人名	株式会社 清華の森		
事業所名	グループホーム 清華の森		
所在地	佐賀県唐津市見借4749番地1		
自己評価作成日	令和2年11月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp</a>
-------------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和2年12月3日	外部評価確定日	令和2年12月25日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>事業所は自然豊かな森の中にあり、デッキ展望台に緑豊かな景色を見ることが出来る。陽射しと静かな環境の中、アットホームな雰囲気、ご利用者、ご家族、職員が「笑顔」の絶えないホームを目指している。定員9名のグループホームであり、ご利用者、ご家族の思いに寄り添いながら、ご利用者が最期を迎えられる日まで自分らしく毎日を穏やかに過ごせるよう支援しています。また施設から見える景色や四季折々の素材を使ったお料理の提供等により春夏秋冬を感じていただけるよう心掛けています。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>唐津市街地より北西部の広域農道わきの広大な敷地に認知症対応型共同生活介護事業所2事業所と障害者施設が併設されている。広い敷地の中には県外からも訪れる人がいるほど人気の水汲み場があり無償で提供している。また唐津湾が一望できる展望所も作られ、利用者の自由な散策にも活用されている。消防訓練等は他の3施設と共同で行われ、夜勤の際も隣接するグループホームの職員で助け合うことが出来心強く感じられている。現在は新型コロナウイルス感染防止に万全を期しており、家族や外来者との面会も出来ないが、気分転換を兼ねた日常の散歩やホーム内での行事などを工夫し、利用者が日々の日常生活の中に楽しみをもつていただけるよう支援されている。これからも質の高いサービスが期待できる事業所である。</p>
--

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に当事業所の理念を掲示している。常に職員が認識、実践に繋げるよう、心掛けている。	理念は開設当時に創られ、玄関、リビングに掲示している。また法人代表者の毎日の朝礼で、唱和し意識付けを図っている。常時の理念確認で理念の実現への意識が高まり支援に結びついている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの受け入れや、地域での催事などがあれば必ず参加する様にしている。また、地域の方たちとの連絡を密に取り、交流の機会を作っている。	周辺に住宅は少なく、地域住民との日常的な交流は難しいが、回覧板や運営推進会議で情報は得ている。これまで地域の清掃活動、祭りでの子供浮立見物など積極的に出掛けていたが、新型コロナウイルス感染予防で外出や面会も難しくなり思うように実現できていないのが現状である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで、地域の方に認知症についての話をし、理解を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所での活動、取り組みなどの報告をし、アドバイスや情報を頂いたり、家族様の要望などを聞き取り、サービス向上に活かしている。	新型コロナウイルス感染予防で、ここ半年毎回の開催には至っていないが、基本的には奇数日の28日と決め、夕方の時間帯で1時間半程度で行っている。内容は事業所からの報告に終わるのではなく、出席者からも率直な意見を出してもらえるよう努めている。出された意見は真摯に受け止めている。外部評価の結果も報告されている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、市の職員にも出席して頂き、必要に応じては電話や訪問し、ご意見、アドバイスを頂いている。	運営推進会議以外での接点も多く、日頃から顔なじみである。相談事や問い合わせにはコロナ禍でメールなどで対応してもらえる関係を築いている。また毎月1回介護相談員も受け入れており1時間程度滞在している。利用者事業所の橋渡しとして期待している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化検討委員会を3か月に1回開催、ほぼ全員の職員が参加し、身体拘束について話し合いをしている。外部の研修も積極的に参加し、事業所にて研修報告発表をし、情報を共有している。	入居契約時には指針の説明を行っている。玄関や裏口などチャイムが出入りを知らせているが施錠はしていない。外出傾向がある利用者には、職員はそばに寄り添いながら行動を共にし、行動を抑えることもない。外部での研修会や施設内研修において職員の共有認識を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部、外部研修に参加している。職員間同士でコミュニケーションをとり、意識を持って防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	なかなか研修に参加できず、学ぶことができていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはサービスの内容、利用料金など説明し、個々に理解、同意を得ている。また重要事項説明書などに変更などがあれば、事前に説明、同意を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や、ご家族様の面会時などに意見、要望などを頂き、検討、話し合いをしている。それらを、運営推進会議などで報告している。	コロナ禍で現在は面会を制限しているため、家族と面談する機会が少なくなっているが、様々な機会を捉えて利用者や家族の要望や意見を聞いている。その真意を察し、運営や支援に活かしている。玄関に意見箱を設置しているが投稿はない。毎月ホーム便りと共に利用者の近況を添え家族との面会制限の中でも信頼関係が保たれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議時には、十分に職員の意見を聞き、報告、連絡、相談を徹底している。必要時には個人面談を行い、意見を反映させている。	毎月職員全員の参加で勉強会を開催、ほとんどの職員が参加している。施設長や管理者は職員が話しやすいよう普段から会話をもち、雰囲気づくりに努めている。出された意見や提案・要望は検討し業務に活かせるよう検討されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談などで、それぞれの意見要望を取り入れ、働きやすい環境などの整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修を受けるようにし、順次行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	唐津グループホーム協会に入会しており、2か月に一回の勉強会に参加している。毎回違う職員に参加させ、交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、ご本人と面談、意見要望などを聞き取り、主治医の適切なアドバイスを頂いたりして、不安を解消できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には、家族様と面会し意見要望を聞き取り、密に連絡を取り合い、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様の、現状について話し合い、他にサービスが必要な時は、すぐに対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに信頼、尊重しあって、関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人、家族様のお互いの意見を傾聴し、一緒にご本人を支えていく関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の希望に沿うよう、電話や外出の支援をしていたが、今年、春頃より新型コロナウイルス感染症の為、面会も制限している。	日常生活を通して生活歴やこれまでの人間関係の把握に努めている。本人や家族の希望に沿って買い物、外出の支援を行ったり、家族と一緒に外食をされる事もあったが、新型コロナウイルス感染予防で面会制限がなされており、電話などで友人や家族との絆を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの過ごし方、座席には、配慮をしている。共同での作業やレクリエーションなどで、コミュニケーションをとっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も必要な場合は、連絡を取り、相談に応じるよう努めている。		

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人にお話を聞き、困難な場合は表情や様子等を観察しながら、職員に様子を聞くなどして把握するよう努めている。また、家族様の希望を聞くなどして、個々にあったケアを心掛けている。	入居時に情報を確認している。入居後は各利用者に職員の担当を決め、信頼関係を築いている。ちょっとした利用者の行動やつぶやきなど細かいところまで把握し、本人の心情を察しながら思いに沿えるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らし方を入居時まで、ご本人、ご家族様に十分に聞き取り、以前の担当ケアマネなどから情報収集している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の一日の生活の流れ、心身状態、有する力などの現状の把握に努め、持っている力を十分引き出せるよう、支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族様、管理者や職員、必要な関係者と十分に話し合いケアを行っている。また、それぞれの意見やアイデアを反映させた介護計画を作成している。	本人の希望は日々のケアの中で把握し、家族の要望等は面会時や電話で聞き取り、サービス計画に具体的に反映されている。ケアプランの設定期間は6ヵ月ごととしているが、変化があればその都度見直している。モニタリングは月1回行われ、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態の変化や気づきなど、介護記録に記入、連絡ノート等を活用し、わかりやすく残し、職員間で共有している。 これを活用し介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族様の状況を常に把握し、可能な限り希望されるケアが出来るよう、対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年はコロナの影響で自粛しているが、ボランティアの受け入れや、地域の催しなどに参加し、地域資源を活用しながら楽しむことができるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族様の意向を尊重しながら、入居前からの医療機関の受診などを支援している。	利用者や家族が希望する病院での受診である。協力医をかかりつけとし往診を受けている。入居前からの馴染みの医師のままというケースもあり、受診には基本的には家族となっているが、日頃の様子を知っている職員が付き添うことも多い。緊急時の受診も含めて事業所の受診体制には利用者や家族の安心感となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員とは、常に連絡を密に図り報告している。体調の変化、急変時にはすぐに連絡、支持を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、看護介護サマリーで情報を提供、入院先に訪問し状態把握に努めている。退院に向けても病院と情報を共有し連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応、終末期に関する指針を説明し、同意を得ている。また、早めの段階からご家族様の意向を聞き、話し合いをして主治医とも相談しながら取り組んでいる。	これまでも看取りの経験はあり、体制は整っている。本人や家族の意向を踏まえ、医療関係者と職員が連携を取り、安心して納得した最期を迎えられるよう、支援に取り組む姿勢がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時のマニュアルを作成、発生時の対応について、看護職員の指導のもと行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練や防災訓練をおこなっているが、今年はコロナ禍で、消防署や消防団立会いの訓練が出なかった。避難経路や、緊急時の連絡網は職員会議などで徹底周知している。また警備会社とも契約しているため、火災や緊急時には、すぐに通報できるようにしている。	消防署の協力を得て避難訓練を定期的に行っていたが、今年は新型コロナウイルス感染予防で開催できず、系列事業所と合同で自主訓練が行われている。職員は消火器や火災通報装置の使い方も承知しており、非常食や水等の備蓄もある。訓練での気づきや指摘等があれば速やかに改善され全員に周知している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人が持たれている生活歴や心理状態精神面など考慮し、職員間で共有認識し、言葉掛けにも気を付けている。	理念にも掲げ、入居者の人格を尊重し、言葉遣いに注意し、きちんと向き合い話すようにしている。重要書類はきちんと保管されプライバシーが守られている。ホーム便り等への写真掲載も入居契約時に承諾を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の自然な関わりや同じ時間を過ごすことで信頼関係を深め、希望や思いを傾聴し支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	QOLの向上を目指しながら、その人らしい生活を継続できるよう、個別支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理容にて希望通りのカットやヘアカラーを楽しんで頂いている。毎日の整容も支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何を食べたいかなどを聞き出し、なるだけ希望に沿うよう作っている。時には野菜の皮むきや、食器洗いのお手伝いもして頂いている。食事形態も、個々に合わせて変えている。	献立は、その日の担当の職員が毎日冷蔵庫や手元にある食材、利用者の希望を聞きながら柔軟に決め調理している。品数も多く味付けも良い。誕生日にはケーキのほか、利用者の食べたい料理が用意され、食事の楽しみにつながっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量をチェック表にて把握し調整をしている。また嚥下状態に合わせた食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立した方の見守りや、ケア手順の言葉掛け、困難な方への介助にて、清潔は保たれている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄の状態を把握し、自尊心を傷つけないよう、観察からの言葉掛けや誘導にて、なるべくトイレでの排泄が出来るよう支援している。	排泄チェック表を使用し、利用者一人ひとりに合わせた排泄の自立支援を心がけ、日中は全員トイレに誘導している。パッドやリハビリパンツなど本人の必要に合わせて支援しているが、職員はオムツ類へのコスト意識が高く、タイムリーな職員の排泄誘導で紙パンツやパット類の使用枚数が減り、個人負担となる費用の軽減にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時には必ずヨーグルトを提供、水分量にも気を使っている。毎日かかさず、適度な運動やリハビリ、体操なども行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	月、水、金曜日と曜日や時間は決まっているが、希望があれば入れるようにしている。	入浴は概ね週3回を目途にしているが希望があればできる限り支援している。嫌がる利用者には順番を変えるなど、職員の誘導で支援ができています。浴槽は普通浴タイプと昇降式ストレッチャータイプの設置があるが、現在は普通浴タイプのみ使用で、利用者は介助を受け一人ずつ入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のペースに合わせ、自由に休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が個々の薬を理解しており、服薬には注意を払い行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味である編み物や、読書に対するの買い物支援や、散歩、ドライブなどの支援も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は外庭でのおやつ時間や散歩、ドライブを行っている。希望があれば、買い物支援をしていたが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響で、なかなか出掛けられなかった。ご家族様との外出も控えてもらった。	天候や体調をみてドライブなど当日に決め出掛けることも多かったが、新型コロナウイルス感染予防にて外出する機会が少なくなっている。しかし事業所周囲は広い敷地と、少し坂を上れば所有の展望台があり、そこからは唐津の名所が一望できるため、利用者の散歩コースとなっており、全く外へ出ないという利用者はいない。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方には、家族様と相談し所持して頂いている。買い物などへ行くとき自分で財布より支払われる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により、ご家族様やご友人に電話が出来るようにしている。手紙もポストに投函したり郵便局に出したりの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除はもちろん、リビングには、季節に合わせたみなさんの作品のぬり絵やはり絵などを掲示したり、花や観葉植物を置いている。	ホーム内は無垢の木が使用され、ぬくもりのある落ち着いた雰囲気、リビングの広い窓から春は桜、秋は紅葉と季節の移り変わりを感じる事が出来る。窓際にソファがあり、利用者がのんびり過ごしている。コロナウイルス感染予防に限らず午前午後窓を開け換気を行っている。浴室やトイレはきれいに掃除され不快な臭いはない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、廊下にはソファを置き、いつでもくつろげるように、玄関にも椅子を置き、外を眺めたりできるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前、ご自宅で使用されていた布団やタンスなどを使用している。ご家族様の写真を飾られたり、好きな芸能人のポスターを貼られたりして、楽しんでいる。	火気などの危険物以外に持ち込みの制限はない。各室にクローゼットがあり収納が出来ることで室内はすっきりと整頓が出来ている。掃除は毎朝職員が行い、居心地よく過ごしてもらえるよう支援している。また、衣替え等の手配も担当職員の役割りであり、家族の希望があれば宿泊も可能である。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースでは、なるべくテーブルや椅子の間隔をあけ、スムーズに行動できるよう配慮している。 ご本人の居室に名前札を下げたり、トイレがわかるように表示をしている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)  
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない